

第3回 各務原市学校建替基本方針策定委員会 議事録（要旨）

日時	令和4年12月28日（水） 13時30分～16時00分
場所	産業文化センター2回 第3会議室
出席委員	鈴木賢一委員長、服部吉彦副委員長、福島茂委員、佐藤幹彦委員、 篠田勲委員、熊崎健二委員、阿部雄介委員、杉山幹治委員、尾関加奈子委員
欠席委員	奥村美樹恵委員
議題	議題1 多様な学習活動を展開できる教室空間等について 議題2 アンケート調査について

議事録（要旨）

1. 開会宣言

2. 議題

議題1：多様な学習活動を展開できる教室空間等について

事務局説明	資料説明 資料1：全体の議論の流れ・本日の議論のポイント 資料2：学校の現状（教室空間） 資料3：検討内容（多様な学習空間を展開できる教室空間等）
委員長	教室空間の広さについて議論したい。教室サイズを7.2m×9mから、8m×9mとすることで、新JIS規格の机を導入しても十分な教室空間を確保することができるとの提案であるが、いかがか。 なお、新JIS規格でも奥行きが不足しているとのことであるが、さらに大きな机の広さを必要とするのか、新JIS規格とするのか。
事務局	新JIS規格で検討していきたいと考えている。 旧JIS規格では、教室やノート、タブレットなどの重なる部分が多いが、新規格では、そこが改善される。
委員	資料に現状の写真があったが、旧JIS規格では横幅、縦幅ともに足りない。 新JIS規格を採用されても、教科書もA4サイズになったり、タブレットもあるということで、国はどのように考えているのか。採択される教科書も厚く重くなり、タブレットも採用している。学習内容を増やすことは良いが、教室の広さなどの空間面を踏まえて検討しているのか疑問。 新JIS規格となれば良いが、それでも手狭であると思う。
委員	紙の教科書がいつまで使われるのか、将来予想を踏まえて現時点でどこまで考えるべきことなのか気になった。
事務局	国ではデジタル化を推奨しており、いずれは変わると思う。 一方で、児童数も減少傾向にある。

委員長	いつまで紙が使われ、タブレットに移行するのかは見えておらず、現時点の状況から検討する必要がある。
委員	前提条件を確認しておきたい。学校施設には補助金が適用されると思うが、教室空間や机に対する適用基準はあるのか。
事務局	国の補助要件に面積の基準は定められていない。
委員	自由に発想して良いということか
事務局	広さは広い方が良いが、現行用地の条件があるため、そちらの方が制約となると考える。
委員	新しい教育方法でアクティブラーニングが推奨されているが、多目的室だけに限らず、教室でも行う認識で良いか。
事務局	現状の市内小中学校でも、アクティブラーニングを積極的に進めておられる。新しい学校を考える上では、教室やオープンスペースでも工夫してアクティブラーニングを行えることが望ましいと考えている。オーソドックスな使い方は見えておらず、現状は工夫しながら活用されていると思う。
委員	現在の教室でアクティブラーニングを行う際にどのような課題が生じているのか。例えば、グループ学習への変更などフレキシブルな使い方が求められるのか等、校長先生方から実状を教えてください。
委員	<p>現在教室には教壇がないように、知識伝達型だけでなく双方向の学習形態は継続して行われてきている。</p> <p>アクティブラーニングと言われる小集団学習を行う中で、班隊形にするための机移動の手間を省くため、岐阜市ではアゴラルームと呼ばれる専用の多目的スペースを設けている。</p> <p>(市内では) 4人班での小集団学習はこれまでも行っている中で、これからもより積極的に取り入れていくとすると、最初から円卓があるような教室があっても良いと考える。岐阜市では現時点で円卓があるような教室はないため、アゴラルーム等で対応している状況である。</p>
委員	<p>先生が教え、生徒が教わる形態を「従来型の学び」とすることは適切ではない。「知識伝達型」というが、この方が適している場合もある。授業内容によって、知識伝達型か、グループ学習や個人学習など課題解決学習に適した学習形態かを選択できる施設が良いと考える。</p> <p>教室で小集団学習をしようとする、児童によって机の高さが異なるため、模造紙を広げる際はやりにくく、床で行っている。アゴラルームはテーブルに丸椅子なので、活動しやすくなっている。また、アゴラルームは特別な設備は必要ないため、空き教室の有効活用にもなる。</p> <p>岐阜小学校は、教室間にスペースと机があり、子どもたちが自由に組み合わせ利用できる。子どもたちにとってどういう空間が良いかということ</p>

	を考えると、閉ざされた空間に見えてしまうこれまでの場所のみではなく、子どもたちが集まれるような場所が新たにあっていいと思う。地域の方によるゲストティーチャーや専門家が一緒になって学ぶためにもこうした場があると良いと考える。
委員長	学習の機会として、一人、グループ、全体と教育シーンがある中で、それぞれができることが必要となる。一つの部屋とするか、別々の空間とするのかは大きな話、知識伝達型の授業がなくなるとは思えない。グループでもできる空間も必要で寸法の問題も出てくるが、根本的な教育方針が決まっていないと議論は難しいところである。
事務局	知識伝達型の教育方法は今後もあり続ける中で、アクティブラーニングを行うためには広い空間が必要となる。その際には、オープンスペースによる拡張も検討されるが、新 JIS 規格の机を採用することを前提とした普通教室のサイズ 72 m ² を検討しておきたい。
委員長	知識伝達型の場合に 72 m ² を最低限確保する点については合意できるのではないか。
委員	他自治体の小規模校では、教科教室型で行っているところもある。(白川町)
委員	一様に議論しているが、小学生と中学生では体格差があるため、違いを踏まえて議論していくべきである。机、椅子の高さ、教室の大きさについて再検討しても良いと考える。
委員長	天井高においても、同じ 3m でも大人 35 人と低学年の 35 人では感じ方が違う。天井が 5 cm あがるだけでも空間の広がりを持つ。一方で、現場では 5cm さげることでコストを下げようとの議論をしているので、配慮が必要。
事務局	小空間、ロッカースペース、特別教室の説明
委員	(事務局からの説明を受けて)取り組んでいる事例が多く驚いた。35 人学級が始まった矢先に 30 人学級の議論がされており、学級編制の変化のスピードが早い。アクティブラーニングの話がある中で、可能であれば、フレキシブルに広く使えた方が良いと考える。 机のサイズも広い方が良いと思うが、視察に行った中学校では、タブレットの利用は個人任せとしていた。
委員長	変化の想定ができず、固定的な観点で決めていかない方が良くのご意見で、変化に対応できる学校づくりを大事にというご意見だと思う。 囲われた教室ではなくて良いという考えもいただいたが、廊下側に開けた空間の方が変化に対応できるのか。 机のサイズに関してもタブレットで検索エンジンを活用しながらノート

	に記入するような併用利用もある。
委員	全国的にどこの小中学校でも、主体的に学ぶという方針でやってはいると思う。タブレットは自分で主体的に学ぶためのツールの一つであり、教科書も自分で学んでいけるような内容になってきた。独自に先生が地域に即した資料を配布するケースもあり、児童生徒らが自ら考えて学習する場面は多くなってきている。主体的に学べる環境を考えたときに、開放感是很重要的ポイントになると思う。オープンスペースがある学校は「開放感」を感じる。狭い空間よりも、広がりのある空間の方が、自ら学習する機会そのものは多くなるのではないかと思う。一方で個人によっては、狭い空間も必要な場面もあるので配慮は必要。
委員	オープンスペースは必要と考える一方、オープンスペースが子ども、先生に与える影響はどうなっているか気になる。開放感は生まれるが、先生の負担は増えるのではないかと考える。バランスを含めて考えていく必要があると思う。 各務原市にオープンスペースを有す学校はあるか。
事務局	市内には2校あるが、教室に連続しているものではなく、各フロアに独立してある形態。そのため、アクティブラーニングはできていない。
委員	オープンスペースはあったら良いが、スペースの問題がある。小規模校であれば良いが、各学年7, 8クラスある学校では難しく、学校の統廃合の話がでた場合もスペース的に厳しいところである。 アクティブラーニング的な利用はできなくともすぐに学年集会を実施できるのは良い。
事務局	どういう教育をするのかということが明確でない中で審議いただいているので心苦しいが、先生方の工夫を加味しながら国の方針などを鑑み検討を進めるしかないと思っている。詳しくは議題2でお示しするが、市内小中学校の全教諭を対象にアンケート調査を行う予定にしている。実際の教育現場から得られる調査結果を今後の委員会での検討・議論の材料の一つにさせていただきたいと思う。
委員長	詳細な議論は難しいが、オープンスペースの設置については合意いただいていると思う。
委員	視察に行った学校の授業では、廊下で先生と児童が対話することがあった。理由としては理解度を図る上で、恥ずかしさへの配慮とのことであったが、こうした点から小空間は良いと思った。
委員長	80年代オープンスペースが日本で広がった中で、落ち着かない生徒、教師が出てきた。この観点から、広がりがある空間と狭い空間があると様々なシーンに対応できて良いと思う。

	大人の働き方も変わってきている。自分で心地よい学習の場を選択できる環境があっても良いと思う。
委員長	ロッカースペースについてはどうか。小学生の持ち物が増える中で、どれくらい必要とするのか。
事務局	裁縫セット、絵具、体操着、楽器など様々なものがあるが、最低限ランドセルが入るスペースは必要である。 オープンスペースとの関連になるが、ロッカーを後ろにするのか、間仕切りとするのかなどの工夫がいると思う。可動式については、災害時を含めた検討が必要だと思っている。 また、ロッカールームみたいなスペースを設けていることもあるようだが、見通しの面で課題もあるようだ。
委員長	特別教室についてはどうか。
委員	学校によって異なるが、南北棟で分けているところ、フロアで分けているところがある。
委員	理科室や家庭科室はアクティブラーニングのような作りであるため、授業だけでなく委員会活動を行うこともある。 大規模校で困るのは、体育の際の着替えであり、特別教室が複数あると対応できて良い。
委員長	地域の人への開放について、セキュリティが取れることが必要と思う。先ほど紹介のあった事例では、フロアで分ける場合1階を地域に開放しているということか。
委員	1階は地域でも料理を作るのに活用されている。コミュニティスクールの考え方もあるので、地域の部屋があり、施設もできるようになっている。アクティブラーニングの延長にもあると思うが、STEAM教育へのつながりを配慮すると、特別教室を使いながら共通して使える空間もあればよいと思う。
委員長	全国的にみて普通教室は随分オープンになり、他施設との連携が生まれてきた印象があるが、特別教室に関しては、まだ至らない点が多い印象があるので、連携が出てくると良いと思う。
委員	大規模校と小規模校の問題、モデルを考えることで、話が整理されるのではないか。 一つのベースラインとなり、そこから個別施設について考えることになる。
委員	適正規模をベースにしながら、大小に対応しながら工夫すべきところを整理できれば良いと思う。

議題 2：アンケート調査について

事務局	資料説明 資料 4：アンケート調査（1 回目）
委員	アンケートの回収率はどれくらいを想定しているか。
事務局	3 割～4 割を想定し、18 歳以上の一般市民のサンプル数を 500 では少ないと判断し、1,000 とさせていただいた。
委員	問 10 パソコンルーム、問 11②コンピューター教室等の言葉の整合を図っておきたい。また、実在する部屋名称にしておきたい。
委員	事前説明のアンケートと今日のアンケートは変わっているか。
事務局	変わっているので本日のものをベースにしてもらいたい。
委員	学校に対する質問と教職員に対する質問を分けた方が良いと思う。例えば、教職員に地域開放について、実施しているかは学校代表者に聞いた方が良い。教員に聞いた方が良いと思うことは分けて聞いた方が良い。 気になる選択肢として「学校施設について」では、大きな課題がある。課題がないという選択肢としているが、課題がないというのをどのように判断するか難しい。可もなく非もなく、課題がないとするか、十分理想が実現していないことへの課題があるとするかで大きく違う。先生の理想と現実が違うという考え方もある。
委員	C の問 2 では自分の好きなどころではなく、友達にしているのはなぜか
事務局	自分のことよりも友達の方が答えやすいのではとの考えからである。
委員	自分のことの方が良いと思う。 学校として答えることと教員に聞くことは分けておきたい。課題がある中で課題を記述式になっており、一定の選択肢があった方が良い。 問 7 の執務室は、事務室があればよい。 各務原が各務ヶ原となっているので修正願いたい。
委員	先生用のアンケートは課題有りとは回答すると具体的な課題を書いてもらうことになっている。回答作業がかなり煩雑になってしまうことを危惧している。
事務局	選択肢を設けることで幅を絞るのではないかと危惧したが、選択肢を整理し、その他で具体的な課題を拾うようにしたい。
委員	一般的には、プレサーベイをしてヒアリングした上で、アンケートに反映できれば良いのではないかと思う。先生方から聞くのであれば、ヒアリングを小中学校別に大規模、中規模、小規模を実施することで全体像が見えてくる。ヒアリングで問題がある場合、理由もわかってくるので、何が前提となるか端的にわかる。ヒアリングのメモを共有してもらえば、今後の議論にも役立つと思う。

事務局	校長先生方がお集まりの場を活用させていただくなど、検討していきたいと思う。
-----	---------------------------------------

3. 学校カルテについて

事務局	資料説明 資料 5：地域カルテ 資料 6：学校カルテ
委員	築年数と耐用年数の見込みと生徒の見込み数が分かればよい。建替え時期の児童一人当たりの面積などが分かると良い。
事務局	施設の配置と築年数を色分けしている。校舎の建設年度などを整理している。人口推計に関しては、今後最新のものに差し替えていく予定。

4. 今後のスケジュール（予定）

次回の委員会は 2 月 24 日(金)産業文化センター 2 階第 3 会議室にて開催を予定している。